

経営者にしかできない“デザイン”があります(2)

デザインする上で必須の能力

— 造形や色彩感覚の前に —

応用技術課 デザイン担当 古郷 彰治

独自の企業価値を創造し高めていくためには「デザイン思考」ができる企業になること。そのためにはまず経営者がデザインの本質を理解し、経営の中核で活かしていくこと、つまりデザインを上手にマネジメントしていくこと。これは経営者にしかできない“デザイン”なのです— [クリエイティブ京都No.141/2018.02]

前回そのように書いたところ、「いや、そう云われても、具体的にどうすればいいの？ そもそも自分はデザインが苦手だし」というような声をいただきましたので、もう少し掘り下げてみたいと思います。

デザインはよく分からない?!

「ワシはデザインなんてよう分からへんし、任せるわ」。このときに社長さんが仰っている「デザイン」とは、もっぱら造形や色彩のことで、「ボクはゲーシュツは分からんし」とか「自分はセンス無いからなあ」というようなセリフが続きます。こういう言葉が出てくる背景には、デザインとは見た目のカッコよさや美しさ、表面的な装飾、付け加えた価値、という理解がまだまだ大勢を占めているという状況があります。これは日本だけの特殊事情でもあるのですが。

デザインは良いけれど?!

「これ、デザインは良いけど、使い勝手が悪いね」とか「デザインを優先したために事故が起こった」というような云い方も同様で、使い勝手が悪いということは、そもそもデザイン自体が悪いのです。事故を起こしそうな設計や造形も同じで、やはりデザインが悪い。しっかりデザインすれば心地よく使えるし、事故も起こりにくくなる。いくら見た目がよくても操作方法が分かりにくかったり、間違えてしまったりという製品は「悪いデザイン」なのです。

経営者によるデザインの始まり

そういう製品に出くわしたときに「これ、デザインは良いけど…」と云うのでなく、「これ、デザイン悪いね」とビシッと切り捨てる。そして、自社にとって「良いデザイン」とはどのようなものなのか、自社が社会に提供できる価値は何なのか、強みは何なのか。そこから導き出される方針やテーマは？ そしてそれらを反映した色や形は？ というように自社と自社の製品のあるべき姿を語る。それが経営者にしかできないデザイン、経営者によるデザインマネジメントの始まりです。

デザインする上で必須の能力

つまり、造形や色彩の感覚以前に、デザインをする上で必須の能力があります。それは「本当に必要なものに気づく能力」や「自分たちでないと持ち得ない価値に気づく能力」そして「自分たちが思い描く理想を少しでも現実に近づけていくためのステップを設定する能力」など。でもこれらはそもそも経営者にとって必須の能力ですから、ほとんどの経営者の方々はすでに「デザインする能力」をお持ちだということになります。そう考えれば「デザインは苦手だ」と思っておられた社長さんも「デザインは面白い、ワクワクする」に変わる。それが自社のデザイン活用の原動力になっていきます。

デザインには二つの段階

デザインする過程は大きく二つの段階に分れます。前半が「コ

のデザイン」そして後半が「モノのデザイン」。言い換えれば「コンセプト(考え方)」のデザインと「プロダクト(作り方)」のデザイン。経営者の方々がすでにお持ちの「デザインする能力」はまず前半の「考え方のデザイン」で大いに発揮してください。そうして出来上がったコンセプトを反映し、具体的に製品の形や色に落とし込んで作っていくという「作り方のデザイン」の段階では、まだ見えないものを誰にも分かるような形にしていく能力、つまり直感性や理解力、表現力、そして造形や色彩の感覚などが重要になるので、そういう能力に長けた社内人材の起用や育成、さらには社外の専門家との協働が有効になるでしょう。それも含めたマネジメントが「経営者にしかできないデザイン」ということになります。

デザインの二つの段階：コンセプトとプロダクト



デザイン企業の仕事や考え方に触れていただく

しかし、いざデザイン企業の力を借りようとする、あれこれ心配や不安、疑問が生じてなかなか踏み切れない、そういう経営者の方々に、デザイナーさんたちと気軽にお話しいただき、まずは距離を縮めていただこうと、京都ビジネス交流フェアの会場で毎年開催しているのが **KYOTO DESIGN WORKSHOW** です。今年は2月14日～15日に、プロダクトデザインを得意とするデザイン企業8社がそれぞれの仕事例や、デザインをするにあたっての考え方などを示され、質問や相談にもお答えいただけます。

会場では併せてデザイン活用のガイダンスも実施する予定です。ものづくり企業の経営者の方々にぜひともお立ち寄りいただき、デザインの導入や活用のきっかけにいただければ幸いです。

※KYOTO DESIGN WORKSHOWの詳細は当センターのホームページをご参照ください。
<https://www.kptc.jp/gjutsushien/kyoto-design-work-show2019/>